

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成20年4月(2008年) No.508

森保信さんが急逝

———謹んでご冥福をお祈りいたします———

会長 合原一夫

森さんが亡くなられたという事が、未だに信じられない思いです。亡くなられたのはOMC例会日3月22日、二次会から夜11時頃帰宅して初めて関さんからの連絡で知りました。最後にお見舞いに伺ってお会いしたのが10日前の3月12日、このとき森さんも参加されてきたOMC撮影会作品を、柳川ひなまつり、小豆島、沼島、日野祭り等1本のS-VHSにダビングしてお渡しし、しばし楽しかった撮影会の思い出を語り合ったものです。このときは、まだしっかりとしておられ、まさか10日後にお亡くなりになる等とは夢にも思いませんでした。

去る1月30日、森さんの奥さんよりお電話があり、明後日の2月1日の会場申込日には、体調不良のため行けそうにないのでお願いしたい、とのことで、1日には私が会場申込みに出掛けました。今まで森さんにずっと会場申込みの役をして頂いていたのです。その後16日お見舞いと会計引継ぎに森宅を訪問、肺ガンだと打ち明けられました。酸素を装着して楽になり食欲も出てきたと、比較的明るい表情のもと、普段と変らぬ、たんたんとした語り口でビデオの話などされていました。その後もう一度訪問して会計引継ぎを終えました。誠に几帳面に記録されていて1円の狂いもなく、森さんの誠実さを改めて感じ入りました。

お通夜、お葬式と会員諸氏には関さんの方から近くの方にはメールやファックスなどで通知して頂き、急な事にも拘わらず映像仲間10数名の参列を頂き、また、大阪アマ連、日本アマチュア映像作家連盟、OMC等供花のお手配など吉岡さん等がよく動いて頂きました。ご苦労様でした。森さんには会計担当としてよく尽くして頂きました。どうぞ安らかに眠り下さい。

4月例会のお知らせ

4月例会は第4土曜26日午後6時より、大阪市立難波市民学習センター(JR難波駅上OCATビル4階)にて開催。気候も暖かくなりました。どうぞ例会にお越し下さい。作品の方もよろしく。

森 保信さんを偲んで

吉岡 貞夫

桜の蕾が膨らみ始めた 3 月 22 日、開花を観ずに、森 保信さんが逝ってしまいました。この日は丁度 OMC の例会日、終了後喫茶組と居酒屋組に別れ、私は居酒屋組の二次会の席で森さんの訃報を聞きました。此の話を聞く 30 分程前、偶然にも森さんの最近の様子について話していたところでした。お酒好きな森さんも元気であれば宴席に同席したかった事と思います。この日の居酒屋の光景を天国から見ていたのかも知れません。

森さんは OMC 行事のために終始ご尽力されてきました。毎月の例会場の確保も森さんが担当され、今回の例会に参加され皆さんの顔も見たかった事と思いますが、開催数時間前に残念ながら亡くなられていた様で 3 月行事の手配が最後となりました。

森さんと私の出会いは昭和 40 年代、フジフィルム主催の FCFC 例会場でした。例会終了後、居酒屋の席で意気投合その後酒好きな森さんと酌交しながら映像談義に花を咲かせた事が昨日の出来事のように想い出されます。酔うほどに話題が繰り返され夜遅くまで話合った事が多々ありました。此の当時の酒量が最高で晩年徐々に量も少なくなりました。そして今年の OMC の新年会で相席、酒を酌交したのが最後となりました。

森さんはすごく几帳面で、真面目で、機材を大事に扱う人でした。会の集金や支払の都度、残金の確認と必ずメモを付け、其の度に再確認を依頼され此の几帳面さに感心しました。また服装からでも真面目さが伺えます。服の釦の掛け忘れが無く何時も服装は正しく着用、帽子は真っ直ぐ被り私は到底真似の出来ない身だしなみの良い人でした。機材は何時も大事に扱われていました。撮影で移動の際は、奥さん手造りのケースにカメラや三脚を入れて持ち歩き、撮影中小雨が降り出すと撮影を中止して、機材は絶対に濡らした事はありませんでした。映像よりも機材の方が大切だったのでしょう。

撮影は手持撮影を絶対しない、何時も三脚を使い、構図に気を使いながら撮影され、森さん独自の編集をされた作品を例会で発表されていました。また、森さんは歴史人物に詳しくよく熟知され、行く先々で詳しく歴史のことを教えて戴いた事が度々ありました。晩年、那智の火祭や山鹿燈籠、古川まつり、など精力的に企画され遠路まで、写友と楽しく撮影に出掛けた行事は大きな思い出として残っています。

数多く作品を手掛けられた中で、代表的な作品「春を呼ぶ炎」は 2 月堂のお水取りの取材に寒い中、数日間奈良まで足を運ばれた作品は努力作でした。私は此の映像は今も思い出の一つとして脳裏に残っています。まだまだ作品にしたいテーマが多々あった事と思いますが、病魔との闘いに負けてしまった事が残念だったことでしょう。

森さん長い間お付き合いして頂き有難う御座いました。またクラブのお世話ご苦労様でした。ゆっくりお休みください。謹んでご冥福をお祈りしています。

■進藤世話役が新会計担当に

森さんから引継いだ会計書類を整理して誰にも判り易いようにした上で、改めて進藤さんに引継いで頂きました。早速パソコン入力して会計処理を始められています。

■晴天に恵まれた近江八幡左義長撮影会

13 名の参加者を得て、迫力充分な左義長まつりを撮影することができました。作品コンテストは 5 月例会日の 13 時から会場を予約してあります。ロケハンや代表撮影及び素材テープ作成等、玉井さん、西井さん関さんには大変お世話かけました。

■新入会員のお知らせ

◎上田吉巳さん Tel.0724-26-6269

〒596-0844 岸和田市土生^{はぶたき}滝町411

◎宮井 健さん 電話090-3824-7586

〒596-0062 岸和田市吉井町4-17-16

よろしくお願いします。

3 月例会レポート

3 月例会は 22 日 18 時より恒例の会場で開催、司会：吉岡氏、書記：合原氏、機材：江村、増池の両氏、受付：進藤、渡辺の両氏。

◆出席者：有村、井上、江村、岡本、上総、紙本、黒田、合原、進藤、関、錦、西村、華岡、前田、増池、松本、森田、安居、山本、吉岡、渡辺、上田(新)、宮井(新)

◆上映作品（今月の講評は合原会長です）

1. 十日えびす

吉岡貞夫さん 13分25秒

西宮神社恒例の十日えびすの神事を中心に丁寧に判り易く作られています。地中海で獲れた重さ 288Kg の本まぐろの体にコインを貼りつける参拝客、有馬温泉の湯もみ女の所作、1月10日、大太鼓を合図に開門され、若者たちが一斉に神殿に走り1番札を目指す行事など、西宮神社ならではの情景が描かれています。西宮神社のことなら吉岡さん、吉岡さんだからこそモノにされた映像でした。

2. 西梅田キャンドルナイト(W)

増池 茂さん 7分25秒

近年すっかりハイカラになってきた西梅田かいわいに、こうした夜のイベントが催されるようになったんですね。いろんなまとめ方があると思いますが、私なら場所の説明として大阪駅名のあるビルからパンニングして西梅田のビル街、夕景、ビルからティルトダウンするとキャンドルの準備をしている人たち、火をともし人々、ビルの谷間を歩く人たち、どこからともなくピアノの音色が聞えてくる。ピアノをひく人、そのリズムに合わせてキャンドルライトが夢幻的に展開…。考えればキリがありませんが、美しいカットが随所にありましたので、全体の構成をもう一度再構成されたら如何でしょうか。BGMとピアノの演奏の音があまりにもかけ離れた印象を受けたので、せっかく撮られたカットが活かされていないように思いました。しかしムードある結構な作品でした。

3. ユニークな河童の話(HDV)

紙本 勝さん 8分00秒

岩手県遠野市に伝わる民話を中心に、語りべの声も活かして、うまくまとめられています。河童にまつわる話は特にいろいろあるようでユーモアがあります。一度は行ってみたい、そんな気にさせてくれる楽しい作品でした。

4. 新幹線N700に乗って(HDV)

安居利次さん 8分10秒

今まで気にもかけていなかった車両形式の話。新幹線も従来の700系に対して新しい型のN700系が出来たとのこと。それを上京のついでに、その両者の違いを比較紹介されるなど、単に新幹線に乗るだけではなく、たまに乗ったからにはビデオ作品にしくちゃ、という安居さんならではの意気込みが感じられます。私など新幹線に乗っても唯、外を見ているか新聞を読んでいるに過ぎませんが、作品のテーマは探そうとすれば身近に見つかるものですね。トイレのシュッポ、印象に残るカットでしたね。それにしてもヤマダ電機ビデオコンテスト授賞式で交通費も出て、10万円相当の商品も貰え、幸せなスタートでしたね。今年は安居さんにとって占いはきっと「大吉」であるにちがいありません。

5. 神戸・南京町春節の夜(HDV)

井上勝彦さん 8分47秒

神戸にお住まいの作者ご夫婦が久しぶりに南京町春節祭を訪ねられました。名物の獅子が春節祭らしい雰囲気をかもし出しています。春節祭は毎年2月7日から5日間行われるそうです。奥さんのナレーションが適切で判り易く語っておられます。幻想的な夜光竜の舞いは3D処理ということでしたが、さすがに良い効果をもたらしていて、しばしうっとりしていました。ところで、こういう作品では奥さんの姿が画面の中に出てほしかったと思いました。よりホームビデオとしての「自分たち」の作品になると思うのです。

6. 天迄耕す(HDV)

森田光春さん 9分50秒

雲南省の元陽の棚田と少数民族の村へ行って撮ってこられました。さすがに世界一スケールの大きな棚田ではないかといわれる元陽の棚田は見事です。構成の順序ですが棚田→食堂→棚田→移動(車窓から棚田)→食堂→移動→少数民族村での人々→子供達→寺→青空市場→移動中の車窓からの風景で「おわり」。恐らく撮影の順序に正直に並べられたものと思われますが、第三者に見せる「作品にするには、話の筋道の立

て方に脚色があってもいいと思うのです。この作品で何を言いたいか、ラストの盛り上げに何をもって来るか、撮影順にこだわらず見直してみても如何でしょう。車窓からの走りながらの棚田風景が必要かどうか、素晴らしい棚田の風景の間の食堂での現実的なカットが適当な位置かどうか、もう一度見直されてみたらいかがでしょうか。素材が良いだけにいい作品になる可能性は大きいと思います。

7. 赤目溪谷を歩く (HDV)

有村 博さん 9分00秒

冬の赤目溪谷を一人で歩いて撮ってこられました。氷瀑が出来ているのではないかと期待して行かれたようですが、地球温暖化の影響でしょうか。滝が凍ってしまうところまではいかなかったとか。それでもキラキラ光るつららなど冬らしい赤目の表情がよく描かれていました。アイゼンをつけていかれた由ですが、有村さん、ほんとにお元気ですね。

8. 秋・余部 (HDV)

江村一郎さん 6分00秒

トップシーンは余部鉄橋を遥かに見おろす山の上からのロングカットです。あの撮影場所まで行かれるには苦労があったと思われます。もやのかかった鉄橋のあるカットもいいですね。トンビでしょうか大型の鳥が続けて3カットでしたが、少し多すぎるように思いました。あとは江村さんらしいアップの積み重ねで江村映像の世界に、しばし浸らせていただきました。

9. 随想 (HDV)

上総修一郎さん 8分15秒

「あしと水鳥編」というサブタイトルが出てきます。あしの繁った池に鴨が泳いでいます。これらを作者はじっくりと見つめて、鴨の気持ちになって一人語りで展開します。鴨の次がカワウ、アヒルが出てきます。白鳥の湖にでる優雅な白鳥のようにはいかぬ、と独り言。渡り鳥が百羽余の集団がやがて飛び立っていくに違いない…。作者が鳥の立場にたって思いを語るという形式は素朴ながらかえって新鮮さがあります。最後の場所を示す地図は、記録作品を狙うなら必要ですが、私は無い方が良く

思いました。それにしても上総さん、東京まで出掛けて撮影してこられ、ハイビジョン編集してこられるそのお元気に敬意を表します。

10. なはつきが行く (上り編) (HDV)

前田茂夫さん 11分23秒

”なはつき”とは何ぞやと最初は判らなかったのですが、鉄道マニアの間ではやがて廃止される寝台特急「なは」「あかつき」を合わせて「なはつき」と呼んでいるとか。

それにしても鉄道マニアの前田さん、主に大阪～京都間を走る列車をあちこちの撮影ポイントで熱心に撮影されています。そのご努力には感心いたします。楽しくもあり哀愁感のある作品でした。最初の上へ上っていくテロップは見づらかったです。

11. 古都ルアンプラバーン (HDV)

山本正夢さん 7分30秒

ルアンプラバーンとはとはラオスの古都の名です。一日の始まり托鉢からです。その後青空市場、メコン河、街なか、寺院、仏像と続きます。美しいモザイク壁画が輝いて見えます。ラストはメコン河の夕景です。山本さんはいつも観光客のあまり行かない珍しいところへ行って撮影して来られるので期待感一杯で拝見しています。仏教国ラオスの一端にふれた思いがしました。

12. えじゃないか (HDV)

上田吉己さん 4分25秒

新入会初出品のハイビジョン作品です。上田さんはフィルム時代からのベテランさんです。「きよしのソーラン節」一曲をもとに、いろんなグループが一小節ずつ出て踊り子が替わります。その編集は難しかったと思いますが、実にぴったし合わせて作っておられます。ラスト近くにシルエットの画面がでて、また順光に戻り、ラストカットが再びシルエットでしたが、ラストにシルエットをまとめた方が変化があり印象に残るのではないかと思います。

13. 南京町春節祭 (改作) (HDV)

錦 務さん 6分24秒

先月上映されたものを半分の長さに縮めて再編集され、見易くなりました。南京町についての自分の思い等を語られれば、もっと良い作品になると思いますが如何？